

平成 22 年度 第 1 回 長野市文化芸術振興審議会

- 【開催日時】 平成 22 年 11 月 29 日（月）午後 2 時から午後 4 時 15 分まで
- 【開催場所】 長野市役所 会議室 17
- 【出席委員】 中山会長、宮澤副会長、小林（一）委員、海沼委員、小林（玲）委員、清水委員、山岸委員、石田委員、菱山委員、柳澤委員
- 【出席職員】 堀内教育長、酒井教育次長、久保田生涯学習課長、金井文化財課長、小林庶務課長、鵜野生涯学習課長補佐、柳澤生涯学習課係長、吉岡生涯学習課主査、内山庶務課主査、嶋田生涯学習課主事

【内容】

- 1 開会
- 2 会長あいさつ
- 3 教育長あいさつ
- 4 新任委員の紹介
小林一美委員の紹介及び自己紹介

5 事務局自己紹介

6 議事

- (1) 長野市文化芸術振興計画について
- (2) 文化芸術振興の取組み状況について

《事務局から資料 1・2 に基づき一括説明》

◆ 質疑・意見の主な内容

（委員） 資料が事前に配布されるということで待っていたが、配布がなく、また、会議が 1 年間開催されなかった。委員の任期は 3 月までだが、今年度はこの会議が最後ということになるのか、今後のことも含めて、お聞きしたい。

（事務局） 事前に送付できなかったことはお詫び申し上げます。特に資料 2 について、庁内関係課との調整等に手間取ったため当日配布となったものである。今後は、間に合ったものから送付したいと考えるので、理解をお願いしたい。

資料では、現状と実績が未実施という項目もたくさんあり、審議会の意見を伺い進めてまいりたいと思っている。審議会は年に 2 回の開催を考えており、次回には、現状と実績に加え、具体的事項を示し、協議いただくよう、できれば年度末に開催したいと考えている。

（委員） 3 月に開催した場合は、来年度のことについて提言しても、予算的なことなどが決まっている段階ということになるが。この会議の位置づけ、会議での意見がどのように文化芸術振興に生かされるのか、もう一回確認したい。

（事務局） この審議会の任期は、昨年 11 月 25 日の発足から来年 3 月 31 日までで、実質 1 年余りしかないが、振興計画に基づき事業を実施していく中で、委員の

様々な提言等をいただきながら進めていくことが大原則である。

振興計画は、年度ごとの計画ではなく、7年間で施策を推進していくものである。審議会は、委員の更新はあるが、継続して事業の推進状況について、審査し、提言をいただければありがたいと考えている。

(委員) 具体的な提言は活かされないということか。大まかなものを、この審議会で作っていくという、位置づけなのか。

(事務局) 大まかなものについてだけでなく、細部にわたる各論的なことでも助言いただければありがたいと思っているので、よろしくをお願いしたい。

(会長) 今の意見のように、ここでの議論が無駄にならないようお願いしたい。資料についても、送付できるものから送付してほしい。

(委員) 確認であるが、パブリックコメントを経て、一部修正し、振興計画が本年4月に策定されたということは、我々の意見は計画には反映されないということか。また、振興計画の指標項目に「21年度達成状況」となっているが、何に対する達成状況なのか。

(事務局) 3つの施策ごとに指標を設定しており、振興計画の目標値は計画の終期である平成28年度で、毎年状況について把握していきたいと考えている。

この振興計画は、総合計画に基づいた計画で、総合計画に準じて平成28年度までの目標値を示し、それに対しての状況を表しているもので、平成21年度は、達成状況ではなく、現状ということで理解願いたい。

(会長) 最終的なゴールは28年度ということになっているが、あまり具体的な目標というのは、立てられないのか。達成できるかどうかは、目標があつての評価で、28年度に向かって、やっていくということなのか。

(事務局) 総括的に申し上げますと、第四次総合計画の中で目標値等を定めており、その目標値が、この振興計画の指標の一部となっている。総合計画の大きな枠組みの中で、一つの指標として策定したものであり、振興計画に基づいてこれから進めていくときの参考というふうに考えていただきたい。

23年度予算への反映については、難しいというのが率直なところである。今まで文化行政に対してこのような計画を策定しての取り組みはしてこなかったもので、予算に反映しにくい状況になっているかと思う。少し遅い取り組みではあるが、皆様の意見を参考に、予算要求するためにも、議論いただくのが今回の趣旨だと考えている。

計画を一つずつ立て、予算を付けて、というような個別ではなく、審議会では総合的に方向性を示していただき、予算を策定していくというような形になるかと思うので、理解いただき、24年度以降は、できれば予算獲得を大きくしていく、そのための議論をお願いしたい。

(委員) 関連して、取り組み状況の中に数字が出ているが、事業を実施する上で、こ

の位の数字でいいのか、あるいは、足りなくてもっと増やさないといけないとか、来年度の予算に対しても影響してくると思うが、そのような評価をここに盛り込むことはできないのか。

事業評価がこの中に必要なと思うが、それを審議、または見るのは委員がやるのか、わからない。

(委員) 22年の4月から振興計画が始まって、私たちは、この多岐に渡る振興計画を検証する立場なのか。

(事務局) 振興計画自体は、昨年の審議会で、素案に対し協議いただいた経過があり、その後、庁内で調整し、パブリックコメントを経て4月に出来上がったものである。本来なら、4月の決定後、もう少し早い時期に、この計画についてどのように進めていくか協議をいただければ良かったが、この計画を推進する上で、一番大きな目玉になる新市民会館の建設があったので、それも併せて協議したいと考えていた。しかし、建設地の問題等があって、審議会の開催が遅れてしまったことはお詫び申し上げます。

この振興計画については、審議会で施策の評価、検証を行っていただくが、そのたたき台になるものは、まだ示していないので、今後の審議会で示し、様々な提言等をいただいていくような位置づけになろうかと思っており、できるだけ早い時期に着手していきたいと考えている。

(委員) 4月から色々な事業が始まっているが、まだ意見を出しても良いのか。

(事務局) 今までどういう事業をやっているかという取り組み状況ということで理解いただきたい。何もやっていない場合は未実施ということになっている。

目標値については、達成できるかどうか、できない可能性もあるが、達成するには、どのようにやっていくのか、その計画作りを、今後、立てていくという形になるかと思う。その計画に無理があれば、どこに無理があるのか、提言等をいただいていくという流れになる。

(委員) 取り組み状況の資料は、振興計画策定以前からの事業を振興計画の枠組みに当てはめて再構築している。例えばハートフルコンサートや市民演劇祭は、以前から実施されており、振興計画によって新たに予定するものではないため、今後、審議会で振興計画の実現度合いなどを見ていくためには、振興計画策定後に計画された事業と、それ以前からの事業を分けて検証しないと、あまり意味がないように思う。

また、様々なコンサートなどが実施されているが、参加者や観客の年齢層が知りたい。長野市の文化芸術振興は、若年層に対してあまり支援されてない気がする。振興の恩恵を受けているのは、年齢層が高い世代と思われ、ニーズが高いからとは思いますが、満遍なく、20代30代という世代にも支援がいくよう、検証したいと思っている。手間がかかるが、その辺の数字が算出できるように

あれば見たいと思う。

(事務局) 従来から実施している事業と、計画によって新たに実施する事業の色分というのは、データとして必要だと思っているので、今後取り入れて行きたい。それぞれのイベント等の中身についても、出来ない部分もあるかと思うが、できるだけ、データ収集に努めて行きたいと思っているので、よろしくお願いしたい。

(委員) 特に年齢層に関してのデータを希望する。

(事務局) すべてのイベントをとというのは難しいかと思うが、こういったやり方が良いか、主催者等とも相談しながら、努めてまいりたい。

(委員) 計画の推進と評価については、振興計画４ページ「４．計画の推進と評価」の「長野市文化芸術振興審議会において随時、計画に対する協議を行い、必要に応じ事業等の見直しを行うとともに、総合計画の実施計画に反映していきます。」とあるのがわかりやすい。総合計画の実施計画は３年ごとにローリングして反映されているので、同様に考えればよいと思う。

意見としては、計画の１５ページの「多様な文化芸術事業の企画実施」で、「NAGANO文化芸術フェスティバル」実施とあるが、是非、我々も協力して実施を目指していこうと思っている。特に私どもの関係で不足しているのは、これまで音楽関係の団体との連携があまりなく、市民会館の閉館を期に、「響つないで 長野市民会館フェスティバル」を準備しており、この中で、ジャンルを越えた団体を一同に会して実行委員会を作った。これを発展させていけば、必ず実施につながっていくので、頑張りたいと思っている。

(委員) 時間がないということだが、これだけの内容を今見て、ここで意見を述べるというのは、非常に困難だと思う。皆さんそれぞれ思っていることがあると思うが、この場だけしか意見を言う機会がないのか。

(事務局) 気づいた点があったら、後ほど文書でもメールでもかまわないので、提出いただければありがたいと思う。よろしくお願いしたい

(３) 新市民会館の建設について

(４) 新市民会館に求める文化芸術振興拠点の位置づけと役割について

《事務局から資料３・４に基づき一括説明》

◆ 質疑・意見の主な内容

(委員) 市民会館建設の市民説明会では、文化芸術振興に関する説明が十分でなかったと感じたが、今後は、自信を持って文化芸術の振興について語って欲しいと思う。審議会の位置づけ、役割等の議論があったが、この審議会からの意見は非常に重いものがあると思う。

予算要求の根拠にするだけでなく、文化芸術振興を推進する専門のセクショ

ンはどうしても必要だと思う。この審議会から意見があったことを理由付けにして、機構改革等に反映していただくことが、大事になってくる。

今が市民会館の建設と合わせてチャンスであり、市の体制整備もきちんと図っていただきたいと思っている。

(委員) 「新市民会館の建設について」の議題が、会議次第に追加された理由を伺いたい。説明を聞いて、市の考えは分かったが、これに対して、何も意見を申し上げる機会がない。2時間の中で、かなりの時間が説明で費やされたが、その理由を聞きたい。

(事務局) 教育委員会として申し上げたいのは、資料4の「文化芸術振興拠点の位置づけと役割について」である。文化芸術振興の施設のあり方については、以前から検討しており、例えば公民館もその一つであるが、長野市に欠けているものは何かということを検討する中で、この市民会館という問題も出てきている。

計画を立てていく中で、やはり拠点作りについては、どのような考えでやらなければならないか、ということがまず大事である。それに伴って、建設地や建設規模などが論じられてしかるべきであろうということで、そのような観点で進めてきており、それを示したものがこの資料である。

これについては、十分に市民の皆さまにアピールできたかという点で反省が残っているが、議会でも、この「4つの役割」というのは申し上げてきており、これを果たすにはどういう建設地が必要かという観点で、答弁してきた。

役割を果たし、特色ある文化拠点となるためには、これだけの規模のものが必要で、4つの役割を十分果たすには、権堂地区と現在地では権堂地区のほうが望ましいと考えたと申し上げたが、いろいろな経過が生じて、現在のような状況になっている。

このような状況の中、方向性や拠点のあり方については、議論いただいた上で進めていかなければならないと考えていたが、建設計画も同様に検討していただくことが必要と考え、今日の審議会に示したという次第である。

(委員) 説明が約20分で、それについて3分や5分ではなく、1時間位議論したいなという気持ちがある。20分の説明があったら、その倍位は議論したいと思う。

(事務局) 説明に時間がかかったことはお詫び申し上げる。先程の話のとおり市民会館は、文化芸術振興の拠点として進めている。

その中では、本審議会の委員さんについても、これから公表する資料等については配り意見をいただきたい、と考えている。

(委員) 「文化力」というのは、どういうものか。また、「文化的風土」とはどうあるのがいいかについてもわからない。文化力、文化的というだけで、目指すものが具体的でないとわからない。

新しい市民会館を造るにしても、例えば駅からここへ来るまでに、彫刻があるくらいで、文化的なものは何もない。いいものを見たり聴いたりして帰るときに、文化的なものを味わって帰れない。

全体で一つの核は必要かもしれないが、そこへ行くプロセスも必要ではないかと思う。この資料を見ると、まちに対して文化を求めているのかなと感じる。車は必要かもしれないが、歩いて楽しんで来られるというのも必要であると思う。

文化というのはお金がかかるものである。文化によって、お金を生み出し、商業が成り立たなくてはいけないと思うし、話が大きくなるが、そのために私たちは何をしたらいいのか。文化がどうではなく、私たち実際に楽しんでいる者からみると、どういうものが必要かというのはなかなか反映されないのではないかと、今日、感じた。

（会 長） 今の意見は、私たちに共通した思いではないかと思う。謳われている言葉は素敵だが、具体的にどのような役割を持ち、どのように具体的に実現していけるのか、ということが大きな課題だと思う。

（委 員） この会議の内容は、ホームページで公表されるはずだが、審議会の役割をあまり果たしていないようなことになってしまうのではないかと危惧する。

大変重要な審議会であると、公募委員も含め、委員皆がその思いで会議に臨んでいるが、意見を出されないままに終わってしまい、あと1回しかないということなので、ぜひ考えていただきたいと思う。

（事務局） 指摘についてはよくわかったが、特に来年度、再来年度に向け、今後どのように長野市が文化芸術の計画を立てていくかというのが重要で、それについて委員の皆さまに審議いただくことが重要である。

今後、計画を立て、資料と会議案内を差し上げる中で進めていくが、必要に応じ会議時間の拡大や開催回数の拡大も検討しながら進めてまいりたいと思う。

（会 長） この審議会の前身といえる、芸術文化振興方針策定会議の委員として、条例制定に向け仕事をさせていただいたが、市民会館のことについては、個別の施設について触れないということで、議論ができなかった。

今回は、理念も大事だということだが、もっと早くやっていただけたらと思う。ただ入れ物を造ればいいのかという問題ではないと思う。

文化芸術振興計画の内容については、「働きかける」、「積極的に図る」、「支援する」など、強い言葉で締めているが、具体性、具体的にどうなのかということが大事である。例えば、「メセナ」を一つ取り上げても、企業からお金を提供してもらうという仕事があり、専任の職員の配置が必要で、それだけ大変なことだと思う。

他にもディレクターとかいろいろ出ているが、言葉があまり踊らないよう、

また、優先順位を付けることも必要だと思う。あれもこれもということで何もできないのでは困るし、予算づけについても同様だと思う。私たちも頑張りたいと思うが、形だけの審議会にしないでいただきたい。

確認事項としては、次回は、事前に配布できる資料は送っていただくこと、また、本日出せなかった意見は、メールや書面でも出すことはできるということである。よろしくをお願いしたい。

7 閉会

以上